

2015 中華民国数学会年会参加報告

国際交流担当理事 泉 正己

中華民国数学会と日本数学会の交流協定に基づき、12月19、20日に台湾高雄市で行われた、「2015 国際数学学術検討会暨中華民国数学会年会 The International Mathematical Meeting and the Annual Meeting of the Taiwanese Mathematical Society」に小谷元子理事長、徳永浩雄理事とともに参加しました。高雄市は台湾南部にある港湾都市であり280万人弱の人口を有する台湾第二の大都市です。この時期は好天に恵まれ気温は20度前後、日中の寒暖差も少なく、真冬の日本から来た身には大変過ごしやすかったです。会場の国立高雄大学は2000年に開校した比較的新しい大学で、高雄市郊外に広大なキャンパスを有しています。

初日の研究会は、中華民国数学会の陳榮凱 (Junkai Alfred Chen) 理事長や小谷理事長の挨拶後、Princeton の張聖客 (Su-Yung Alice Chang) 氏の全体講演で始まりました。二日目の最初の全体講演を行ったのも UC San Diego の金芳蓉 (Fan-Chung Graham) 氏で



あり、年会の二つの看板講演の講演者がともに女性であったことは印象的でした。ところで彼女たちの講演は基本的に中国語なのですが、たびたび英語に切り替わる(数学用語を英語で述べるのがきっかけになることが多い)という不思議なものでした。長年アメリカに在住している人たちでもあり、数学に集中していて何語をしゃべっているのかをあまり意識していなかったのではないかと思います。

全体講演の後には分科会となりましたが、その区分は、「数論與代数」「分析與最佳化」「微分幾何&代数幾何」「動態系統生物数学」「偏微分方程」「離散数学」「機率」「統計」「計算数学」というものでした。本稿の読者の皆さんもこれらの漢字表記が何を意味するかはほとんどの場合容易に想像できると思いますが、念のため英語表記を紹介すると、「Number Theory and Algebra」「Analysis and Optimization」「Differential Geometry & Algebra Geometry」「Dynamical Systems and Biomathematics」「Partial Differential Equations」「Discrete Mathematics」「Probability」「Statistics」

「Computational Mathematics」というものです。会員の総数が 450 名、参加者の総数が 350 名と規模の小さな学会であることもあって、日本数学会の分科会の区分とはかなり違っていています。このようなところにもその国の数学研究の特徴や特殊事情があらわれており興味を覚えました。分科会での講演は主に 50 分のもものと 25 分のものでこれは日本数学会と大きく異なります。ただし応用数学系の分科会では異なる時間の講演もありました。講演で使う言語は、スライドは英語、話は中国語というパターンが多かったようですが、中には英語での講演もありました。私たちが直接話をした数学者のほとんどは海外で学位を取っており、日本数学会よりも英語の上手な会員の割合は多いのではないかという印象を受けました。

昼には初日二日目ともに参加者に弁当が支給されました。初日の昼食時に、「與日本数学会举行双边会谈 Bilateral talk between MSJ and TMJ」があり、我々三人と台湾数学会の理事との間で懇談を行いました。主に、両国での数学教育、中華民国数学会と日本数学会の交流の促進、アジア数学会構想の進行状況についての情報および意見の交換を行いました。少子化の影響で高校の数が減らされ、次には大学の数が減るのではないかという懸念や、博士課程の学生が十分に集まらないことなど、我々にとっても身につまされる話を聞きました。中華民国数学会は日本数学会とのより活発な交流を望んでおり、今後隣国として更なる交流を深めることは双方にとっての望ましいことであると実感しました。

午後には各種賞の受賞者の表彰があり、内訳は、「学会奨」(生涯に渡る功績に対する賞)一名、「学術奨」一名、「青年数学家奨」二名、「傑出博士論文奨」一名、「傑出碩士論文奨」(碩士は日本の修士に相当)二名でした。学生に対する賞をもうけているという点で日本数学会と少し異なります。



初日の夕方には着席でのかなり立派な「晩宴」がありました。参加者が比較的少なく年会の参加費を徴収しているためこのようなことが可能なようです。我々のテーブルには歴代の理事長が並んでおり、当日がその中の一人の方の誕生日であったということで誕生日ケーキがプレゼントされたのが印象的でした。我々のテーブルは平均年齢が高かったのですが、それはおそらく我々のテーブルだけであり、全体的には理事長を含め若い会員の多い学会であるとの印象を受けました。

私は二日目の午前中に日本数学会を代表して全体講演を行いました。果たして重責を果たせたかどうかは心もとない限りです。私の専門分野である作用素環の研究者は台湾にはほとんどおらず、その深いところには触れないような話し方をしましたが、むしろ専門の研究者がいないからこそ作用素環を全面に出した話をすべきだったかもしれません。多くの聴衆がわかりやすい話を望む一方で、わかりやすさを度外視しても変わった話を聞きたい聴衆もいると思います。どちらの聴衆に向けて講演を組み立てるべきかはいくら考えても答の出ないことであり、そのときの気分や勢いで決めるしかありません。



学会が終わった後の二日目の晩に、我々三人で少しかだけ高雄の町を散策しました。漢神 (Hanshin) 百貨という日本の阪神百貨店の技術協力を受けているという百貨店での食事を楽しみ、瑞豊夜市という活気に満ちた屋台街も覗いてみました。漢神百貨店には、巨蛋体育场 (big egg?) という巨大なスポーツアリーナが併設されており、「阪神に big egg があってよいのか」などとたわいのないことを言い合いながら、高雄の町のそぞろ歩きを楽しみました。